M-AUDIO

NRV10

ユーザーズ・マニュアル

日本語

はじめに 3
製品パッケージ内容 3
NRV10について 4
特徴と技術仕様 5
システム必要環境 5
コントローラとコネクタの概要 6
コントローラとコネクタの詳細 7
コントロールパネル・ソフトウエア 11
グローバル・コントロール 11
メーター・ビュー・オプション 11
設定のオプション 12
Meter（メーター）ページ 12
Hardware（ハードウエア）ページ 13
About（アバウト）のページ 14
アナログ・ミキサーを使用する 15
プロジェクト・スタジオ・レコーディング 15
ライブ・レコーディング 16
ライブ・パフォーマンス・ミキシング 16
キュー・バスを使用する 16
FireWire接続を使用する 17
DAWでルーティング/モニタリングを操作する. 17
DAWにトラックを送信する 17
Pre/Post-EQスイッチを使用する 17
DAWに録音しながらオーディオをライブでモニタリングする 18
ローカル・モニタリング 18
テープ・リターン・モニタリング – 個別ミキサー・チャンネル 18
テープ・リターン・モニタリング – 総合リターン・チャンネル 19
Auxセンド1（モノラル）を使用して独立ミックスをモニタリングする 19
トラックをDAWからリターンする 20
デジタル・エフェクト・プロセッサ 20
技術仕様 21
製品保証 23
保証規定 23
ユーザー登録. 23
付録 – ブロック・ダイアグラム 24
お問い合わせ先 25

はじめに

1

M-AudioのNRV10　FireWireミキサーをお買い上げ頂きまして誠に有り難うございます。NRV10は、10入出力FireWireオーディオ・インターフェイスを統合した高品位のアナログ・ミキサーです。NRV10のFireWireオーディオ・インターフェイスにより、最大オーディオ10チャンネルまでをDAWで直接録音することができます。また、アナログ・ミキサー・チャンネルへオーディオを戻すことができます。低レイテンシーのFireWireドライバは、最大24-bit/96kHzのサンプリングレートをサポートし、コンパクトな形状によりホーム・スタジオでもプロジェクト・スタジオでもライブでも理想的にご使用頂けます。

NRV10は、優れたサウンドのマイクロフォン・プリアンプを装備するXLR入力端子、切換え可能なファンタム電源、柔軟なモニタリング機能、リバーブ/ディレイ/コーラス等のエフェクトをミックスに加えるための統合したデジタルエフェクト・プロセッサを含む多くのプロフェッショナルな機能が搭載されています。NRV10には、8系統のライン・レベルの入力端子、2系統のモノラル・エフェクト・センド、各入力チャンネルには3バンドEQ、専用フェーダを装備したコントロール・ルーム出力端子が搭載されています。

製品パッケージ内容

2

NRV10ミキサーをご使用になる前に、製品パッケージに以下の製品が含まれることを確認して下さい：

- M-Audio NRV10
- Pro Tools M-Poweredデモ版CD-ROM
- 6ピン-6ピンFireWireケーブル
- 6ピン-4ピンFireWire（IEEE-1394a）ケーブル
- 外部電源アダプタ
- M-Audio FireWire Series CD-ROM（ドライバ、関連書類、NRV 10 interFXソフトウエアを含む）
- 製本版クイックスタートガイド

NRV10について

3

NRV10は、アナログとデジタルのそれぞれの長所を組み合わせて一つのコンパクトなユニットに統合し、素晴らしいサウンドを出す極めて多目的なアナログ・ミキサーとプロフェッショナルなクオリティのFireWireオーディオ・インターフェイスをコンピュータ・ベースのDAWに提供します。

NRV10は、8系統のアナログ・ライン入力端子、5系統のファンタム電源装備XLRマイクロフォン入力端子、2系統のモノラルauxセンド、2系統のステレオauxリターンを装備し、プロジェクト・スタジオやライブ・レコーディング機器として完璧なインターフェイスです。ミキサー・セクションは、それぞれに3バンドEQを装備する4系統のモノラル入力チャンネルと2系統のステレオ入力チャンネルにモニターとFXセンドを提供します。統合したDSPセクションでは、ミックスに加えるためのリバーブ、ディレイ、コーラス、フランジ等の素晴らしいサウンドのデジタル・エフェクトを幅広く提供し、フロントパネルのロータリー・スイッチで操作できます。NRV10のリアパネルには、XLRと1/4TRSのバランス/アンバランス・アナログ・ミックス端子やコントロール・ルーム出力ペアが装備されています。NRV10のヘッドフォン出力端子を簡単にメインのミックスやモニター・ミックス、キューミックスに切り換えることができ究極の柔軟性を提供します。

NRV10は、コンピュータ・ベースのデジタル・オーディオ・ワークステーション（DAW）にも理想的なオーディオ・インターフェイスとなり、DAWへ最大10チャンネルのオーディオを送信しDAWからNRV10の入力チャンネルに最大10チャンネルを送信する素晴らしいサウンドのアナログからデジタル、またデジタルからアナログへ変換するコンバータを装備したプロフェッショナルなクオリティの高品位FireWireオーディオ・インターフェイスを提供します。また、NRV10はFireWire（IEEE 1394a）ケーブル1本でコンピュータのFireWire（IEEE-1394a）端子へ接続できます（コンピュータにFireWire端子（IEEE-1394a）が装備されていない場合は、コンピュータストア等でFireWire PCIカードを別途お求め下さい）*。

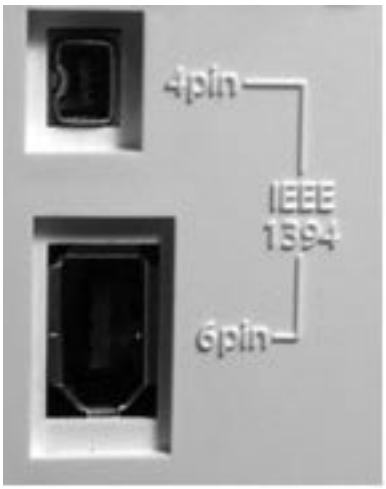
***注意：**http://www.m-audio.jp/の製品情報のページで互換性のある1394A PCIやPCMCIA電源アダプタのリストを確認下さい。*

NRV10のコントロールパネル・ソフトウエアは、入出力端子のモニタリング・レベルを確認するVUメーター、バッファサイズの変更、レイテンシーのコントロール（Windowsのみ）等が可能です。

またNRV10に同梱されたNRV10 interFXソフトウエアでは、コンピュータをNRV10のリアルタイムエフェクト・プロセッサとして使用することができます。NRV10 interFXソフトウエアについての詳細は、ソフトウエアのヘルプ・メニューを参照して下さい。

***重要：**NRV10には、高品位なFireWire（IEEE-1394a）ケーブルが2本（6ピン-6ピンと6ピン-4ピン）同梱されています。コンピュータに装備されているFireWire（IEEE-1394a）端子をご確認になり適切なケーブルを使用してNRV10をコンピュータに接続して下さい。最適なオーディオ・パフォーマンスを得るには、同梱のケーブル（または同等の品質のケーブル）をご使用になることをお勧めします。また、NRV10には同梱の外部電源アダプタを使用する必要があります。FireWire 6ピンによるバス電源だけでは動作しません。*

***注意：**コンピュータの製造会社によりFireWire端子の呼び名が異なり、Sony社ではiLink、また単純にIEEE-1394aと呼ばれる場合もあります。*



特徴と技術仕様

4

- 1/4バランスTRSライン出力端子8系統
- バランスXLRマイク入力端子5系統
- 256の設定を装備する統合したデジタル・エフェクト・プロセッサ
- モノラル・エフェクト・センド2系統
- ステレオ・エフェクト・リターン2系統
- バランスXLRと1/4メイン出力端子
- ヘッドフォン出力端子には柔軟なソース割当て装備
- 完全なスタンドアロン・ミキサーとして動作 ■ 完全なスタンドアロン・ミキサーとして動作

システム必要環境

5

重要：*NRV10は、Windows XPのService Pack 2以降で動作します。Windows 2000/98/Meはサポートしていません。Windowsアップデートのウエブページを参照し、お使いのコンピュータにMicrosoft社が提供する最新アップデータと修正パッチが搭載されていることを確認して下さい。*

NRV10は、Mac OS X 10.3.9/10.4.7以降をサポートします。それ以前のバージョンはサポートしていません。

Windows*

- Pentium III – 800MHz以上（ノートパソコンではこれ以上の高速なCPUが必要です）
- 512 MB以上のRAM
- Windows XP（SP2）
- DirectX 9.0c以降
- コンピュータに装備のFireWire（IEEE-1394a）端子またはFireWire（IEEE-1394a）拡張カードが必要です。

Mac OS*

- Macintosh G3** 800MHzまたはG4** 733MHz以上（ノートパソコンではこれ以上の高速なCPUが必要です）
- 512 MB以上のRAM
- Mac OS X 10.3.9 / 10.4.7
- FireWire端子

*CPUアクセラレータ・カード搭載機はサポートされません。

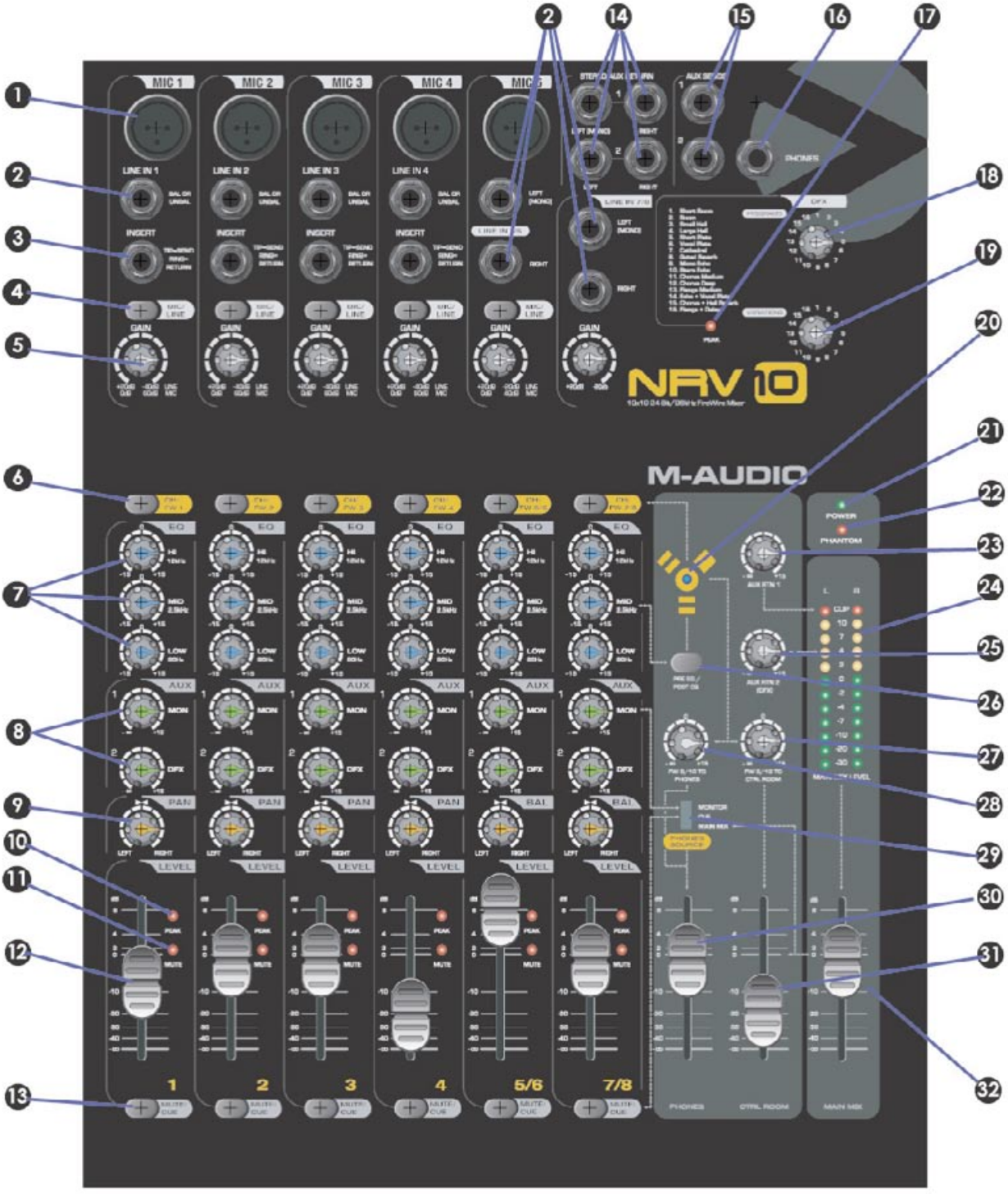
** M-Audioでは、お使いのソフトウエアの最低システム必要条件の確認を推奨します。NRV10の必要条件よりも高い場合があります。*

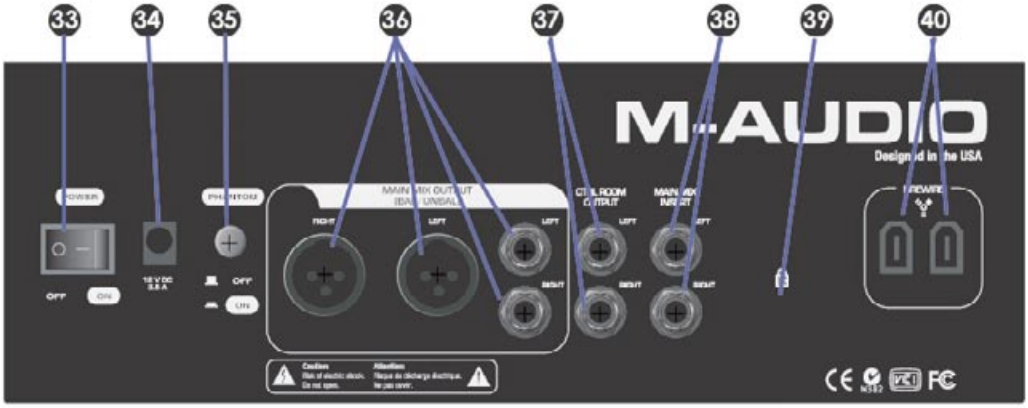
***CPUアクセラレータ・カード搭載機はサポートされません。*

ドライバやハードウエアをインストールする前に、お使いのコンピュータが以上のリストにある必要条件を満たしていることを確認して下さい。コンピュータが以上の条件を満たさない場合、NRV10は適切に（または全く）動作しない場合があります。DAWソフトウエアの最低システム必要条件は、以上の条件よりも高い場合がありますので確認して下さい。

コントローラとコネクタの概要

6





コントローラとコネクタの詳細

7

1. **マイク入力端子：**バランスXLR入力端子には、高品位なマイク・プリアンプが装備されています。これらの入力端子は、関連するライン入力端子（2）と並列接続されているので、チャンネル・マイク/ライン・スイッチ（4）を使用して選択します。XLR端子をチャンネルの入力ソースに使用する場合、使用するチャンネルのマイク/ライン・スイッチを押していない状態に設定する必要があります。マイク入力端子のファンタム電源はリアパネルのスイッチ（35）を使用して有効にします。

2. **ライン入力端子：**バランス/アンバランスのラインレベル1/4アナログ入力端子です。ライン入力1から5は関連するマイク入力端子（1）と並列接続されているので、チャンネル・マイク/ライン・スイッチ（4）を使用して選択します。ライン入力端子をチャンネルの入力ソースに使用する場合、使用するチャンネルのマイク/ライン・スイッチを押した状態に設定する必要があります。ライン入力端子5から8はステレオ入力端子5/6と7/8の左右に対応します。

3. **チャンネル・インサート端子：**これらの1/4TRS端子は、外部シグナル・プロセッサを1から4までの入力チャンネルのシグナル・パスに挿入することができます。インサート・ポイントは、入力ゲイン・ステージのすぐ後になります。コンピュータからのデジタル・オーディオ・シグナルは、チャンネル1から4へルーティングされチャンネル・インサート端子を通過しません。

4. **マイク/ライン・セレクタ：**チャンネル1から5のそれぞれに専用マイク/ライン入力スイッチが装備され、XLR（マイク・レベル）入力端子（1）か1/4（ライン・レベル）入力端子（2）のいずれかを選択することができます。マイク/ライン・スイッチが押されていない「上」の状態ではXLRマイク入力端子が選択されます。マイク/ライン・スイッチが押された「下」の状態では1/4ライン入力端子が選択されます。

5. **チャンネル入力ゲイン：**これらのアナログ・レベル・コントロール・ノブは、対応するチャンネルのマイク（XLR）またはライン入力端子の入力レベルを決定します。ゲイン・ステージはマイク/ライン・セレクタ（4）の後になり、マイク入力とライン入力の両方をコントロールすることができます。

   注意：*最適なS/N比を得るには、A/Dコンバータでアナログ入力のレベルを最大にします。最適な結果を得るには、オーディオ・ソフトウエアのメーターだけでなく入力チャンネルのピークLED（10）も注意深く観察しながらレベルを調整する必要があります。*

6. **チャンネル・ソース・ボタン：**これらのボタンは、各チャンネルのオーディオ・ソースを選択します。ボタンが押されていない状態では、チャンネルにはNRV10のアナログ入力が選択されます（マイク/ライン・セレクタ（4）の決定に従います）。ボタンが押された状態では、DAWの出力が選択されます。

7. **EQセクション：**これらのノブ3つは、各チャンネルのEQ（3つのバンド幅）をコントロールします。Lowバンド幅は80Hzで始まるシェルビングEQです。Midバンド幅は2.5kHzを中心にベルの形にカーブします。Hiバンド幅は12kHzで始まるシェルビングEQです。各ノブは0（ユニティ）ゲインの中央の位置で止まるようになっています。

8. **Auxセンド：**これらのノブは、それぞれのチャンネルでAuxバスのセンド・レベルをコントロールします。

   Aux 1は「Mon」と記述され、モニター・バスへのフェーダに送られる前のセンドです。このレベルは、チャンネルのレベル・フェーダー（12）による影響を受けません。全てのAux 1シグナルを集束した出力は、Aux 1センド出力端子（15）に送信されフォン・ソース・スイッチ（29）を使用して選択することでヘッドフォン・ソースに割当てることができます。

   Aux 2は「DFX」と記述され、フェーダの後のセンドです。つまり、このレベルはチャンネル・レベル・フェーダー（12）の位置の影響を直接受けます。全てのAux 2シグナルを集束した出力は、Aux 2センド出力端子（15）に送信され同時にNRV10の内部デジタル・エフェクト・プロセッサの入力端子に送信されます。

9. **パン/バランス：**モノラルチャンネルの1から4では、このコントロールは左右のメイン・ミックス・バスの間でチャンネルの出力をパンニングします。ステレオチャンネル5/6と7/8では、このノブはメイン・ミックスの左右のバスに送信される入力シグナルの量を決定するバランス・コントロールとして機能します。

10. **ピークLED：**チャンネルの入力シグナルがヘッドルームを超えるとピークLEDが赤く点灯します。この状態が発生した場合、シグナルのディストーションを避けるためにピークLEDが消えた状態になるまでチャンネル入力ゲイン・ノブ（5）を低く調整します。

11. **ミュートLED：**ミュートLEDは、対応するチャンネルのミュート/キュー・ボタン（13）が押された時に点灯し、メインのミックス・バスに送信されるそのチャンネルの入力シグナルがミュートされます。全てのミュートされたチャンネルはその代わりにキュー・バスにルーティングされます。

12. **チャンネル・レベル・フェーダー：**これらの45mmフェーダーは、それぞれのチャンネルの出力レベルを決定し、出力はミュート/キュー・ボタン（13）で選択されたメイン・ミックス・またはキュー・バスに送信されます。

13. **ミュート/キュー・ボタン：**これらのボタンでは、関連するチャンネルの出力先を決定します。ボタンが押されていない「上」の状態ではチャンネルの出力シグナルはメイン・ミックス・バスにルーティングされます。ボタンが押された「下」の状態ではチャンネルの出力シグナルはメイン・ミックスでミュートされ、その代わりにキュー・バスにルーティングされますが、フォン・ソース・スイッチ（29）で選択すればヘッドフォンでモニタリングすることができます。

14. **ステレオAuxリターン：**これらの1/4TRS端子は、外部エフェクト・プロセッサの出力端子を接続しミックスにブレンドすることができます。片方のAuxリターンのペアの左の端子だけに接続されている場合は、シグナルが左右のバスへ均等に送信されます。

   NRV10の内部デジタル・エフェクト・ユニットは、ステレオAuxリターン2へ内部配線で接続されています。入力がAuxリターン2の1/4端子にのみ接続されている場合、統合したデジタル・エフェクト・プロセッサの出力を聞くことはできず、その代わりに外部エフェクト・プロセッサが聞こえます。

15. **Auxセンド：**これらの1/4TRS端子には、チャンネルAuxセンド（8）からの出力シグナルが集束されます。これらの出力には、外部エフェクト・プロセッサの入力端子を接続します。

   NRV10の統合したデジタル・エフェクト・プロセッサの入力は、Auxセンド2へ内部接続されています。機器がAuxセンド2端子へ接続されていてもシグナルはデジタル・エフェクト・ユニットへ依然として送信されます。

16. **ヘッドフォン出力端子：**この1/4TRS端子には、ステレオ・ヘッドフォンを接続します。ヘッドフォンの出力ソースは、フォン・ソース・スイッチ（29）とFW 9/10 to Phoneコントロール（27）の両方で決定し全体のボリュームはフォン・フェーダー（30）でコントロールします。

デジタル・エフェクト・ユニット：NRV10には、16のプログラムとプログラム毎に16のバリエーションを含むステレオ・デジタル・エフェクト・プロセッサが搭載されています。エフェクト・プロセッサは、Aux 2 DFXセンド（8）からのシグナルを受信し出力はAux 2リターン（14）に送信されます。エフェクト・プロセッサの出力はフォン・ソース・スイッチ（29）がMonitor（モニター）の位置に設定されている場合、ヘッドフォン出力にも加えられます。

17. **DFXピークLED：**このLEDは、デジタル・エフェクト・プロセッサへの入力レベルがヘッドルームを超えると点灯します。点灯した場合、それぞれのチャンネルのAuxセンド2コントロール（8）を使用して各独立ソースの入力レベルを下げます。

18. **DFXプログラム・セレクト：**このロータリー・スイッチでは、NRV10の内部デジタル・エフェクト・プロセッサに含まれる16種類のエフェクトを選択することができます。搭載されたエフェクト・プログラムのリストについてはセクション11を参照して下さい。

19. **DFXバリエーション・セレクト：**このロータリー・スイッチでは、16種類のデジタル・シグナル・プロセッサのプログラム内の16種類のバリエーションから選択することができます。エフェクトのプログラムのリストについては、セクション11を参照して下さい。

20. **FireWireインジケータLED：**この青色LEDは、FireWireオーディオ・インターフェイスが有効な時に点灯します。

21. **電源LED：**このLEDは、NRV10の電源がオンの時に点灯します。

22. **ファンタム電源LED：**このLEDは、ファンタム電源スイッチ（35）を有効にすると点灯しXLRマイク入力端子（1）へ電源を供給します。

23. **Auxリターン1：**このノブは、ステレオAuxリターン1（14）に接続された任意の機器からのメイン・ミックスに送信されるシグナルの量をコントロールします。

24. **メイン・ミックス・レベル・メーター：**このメーターは、メイン・ミックスのレベルを表示します。赤色LEDはクリップ・インジケータです。このLEDが点灯した場合は、メイン・ミックス・レベル・フェーダー（32）の出力を下げます。

25. **Auxリターン2：**このノブは、NRV10の内部デジタル・エフェクト・プロセッサからのメイン・ミックスに送信されるシグナルの量をコントロールします。機器がステレオAuxリターン2の入力端子（14）に接続されている場合、内部デジタル・プロセッサからのシグナルはバイパスされ、このノブはステレオAuxリターン2に接続されている任意の機器からのメイン・ミックスに送信されるシグナルの量をコントロールします。

26. **Pre-EQ/Post-EQボタン：**このボタンは、FireWire出力に送信されるチャンネル・シグナルのソース（プリEQまたはポストEQ）を選択します。

    「上」の位置では、FireWire出力に送信されるシグナルはプリアンプ出力で選択されチャンネルEQをバイパスします。

    「下」の位置では、FireWire出力に送信されるシグナルはチャンネルEQを通過した後で選択されます。

    Pre-EQとPost-EQのルーティングのオプションについては、「NRV10のFireWire接続を使用する」を参照して下さい。

27. **FW 9/10 to CTRLルーム：**個々のミキサー・チャンネルにルーティングされる出力シグナル8系統に加えて、NRV10のFireWire出力には、通常DAWからのメイン・ミックス出力シグナルを含む更に2系統の出力ストリーム（ストリーム9と10）が提供されます。これらのストリームは、フォン出力（16）とコントロール・ルーム出力（37）に直接ルーティングされます。FW 9/10 to CTRLルーム・ノブは、コントロール・ルーム出力（37）に送信される追加のオーディオ・ストリームのレベルをコントロールします。

28. **FW 9/10 to Phones：**FW 9/10 to CTRLルーム・ノブ（上記）と同様の方法でFW 9/10 to Phonesノブはフォン出力（16）に送信されるNRV10 FireWireオーディオ出力からのストリーム9と10のレベルをコントロールします。このコントローラは、フォン・ソース・セレクタ・スイッチ（29）の位置とは無関係に動作します。

29. **フォン・ソース・スイッチ：**NRV10のヘッドフォン出力（17）は、FW9/10 to Phoneのソース（上記）に加えて3種類のソースからモニタリングできます。

    - **Main Mix（メイン・ミックス）** – メイン・ミックスの出力をモニタリングします。
    - **Cue（キュ）** – キュー・バス出力をモニタリングします。ミュート/キュー・ボタン（13）が「下」の位置に設定された任意のチャンネルからのシグナルは、フォン・ソース・スイッチがこの位置にある場合にヘッドフォンから聞くことができます。
    - **Monitor（モニター）** – Aux 1バスの出力と内部デジタル・エフェクト・プロセッサのリターンをモニタリングします。

30. **フォン・レベル・フェーダ：**このフェーダは、ヘッドフォン出力（16）の出力レベルをコントロールします。

31. **コントロール・ルーム・レベル・フェーダ：**このフェーダは、コントロール・ルーム出力（37）の出力レベルをコントロールします。

32. **メイン・ミックス・レベル・フェーダ：**このフェーダは、メイン出力（36）に送信されるメイン・ミックス・バスの出力レベルをコントロールします。メイン・ミックス・レベル・メーダ（24）がクリッピングを示した場合、このフェーダを使用してメイン・ミックスのレベルを下げシグナルがディストーションするのを防ぎます。

33. **電源スイッチ：**このスイッチを使用してNRV10の電源のオン/オフを切り換えます。

34. **電源コネクタ：**NRV10の電源アダプタをこの端子に接続します。同梱の電源アダプタを使用するか、または適切な電源アダプタをM-Audioからお求め下さい。

35. **ファンタム電源スイッチ：**このスイッチはXLRマイク入力1から5（1）の48Vファンタム電源が有効になり、外部電源を必要とするコンデンサー・マイクロフォン等のマイクを接続することができます。このスイッチがオンの時、ファンタム電源LED（22）が点灯します。

36. **メイン・ミックス出力：**メイン・ミックス出力は、バランスXLRと1/4TRS出力端子のペアで使用することができます。両方の端子のペアには同じシグナルが送信されます。同時にいずれかのペアの出力端子のみに接続することを推奨します。

37. **コントロール・ルーム出力：**このバランス1/4TRS端子は、メイン・ミックス・シグナルに加えてFireWireとFW 9/10 to CTRLルーム・ノブを経由して返送されるシグナルが通過するコントロール・ルーム・バスからのシグナルを受信します。出力レベルはコントロール・ルーム・レベル・フェーダ（31）でコントロールします。

38. **メイン・ミックス・インサート：**このバランス1/4TRS端子のペアにより外部シグナル・プロセッサをメイン・ミックスのシグナル・パスに挿入することができます。マスター・コンプレッサ/リミター、EQプロセッサ、その他の機器をこれらのインサート端子に接続することでメイン・ミックスに挿入することができます。

39. **Kensington社製ロック端子：**この端子には、Kensington®社製盗難防止ケーブルを接続することができます。

40. **FireWire端子：**NRV10のいずれかのFireWire端子には、同梱のFireWire（IEEE-1394a）ケーブルを使用してコンピュータと接続します。FireWire接続により24-bit/96kHzのデジタル・オーディオ同時入出力を実現します。

    もう一方のFireWire端子には、外部ハードディスク等の追加の機器をコンピュータにデイジー・チェーン接続することができます。

    NRV10が動作するには同梱のACアダプタを使用する必要があります。FireWire 6ピンバス電源では動作しません。

コントロールパネル・ソフトウエア

8

コントロールパネル・ソフトウエアは、NRV10の幾つかの基本機能をコントロールすることができます。

コントロールパネル・ソフトウエアにアクセスする：

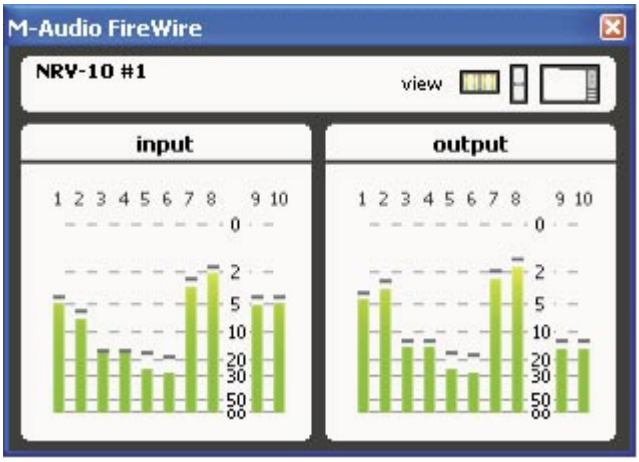
- **Windows XP**では、システムトレイ内にある赤いM-Audioのアイコンをダブルクリックしてコントロールパネル・ソフトウエアを起動します。
- **Mac OS X**では、Appleメニューからシステム環境設定を開き「その他」からM-Audio FireWireコントロールパネルを選択します。

グローバル・コントロール

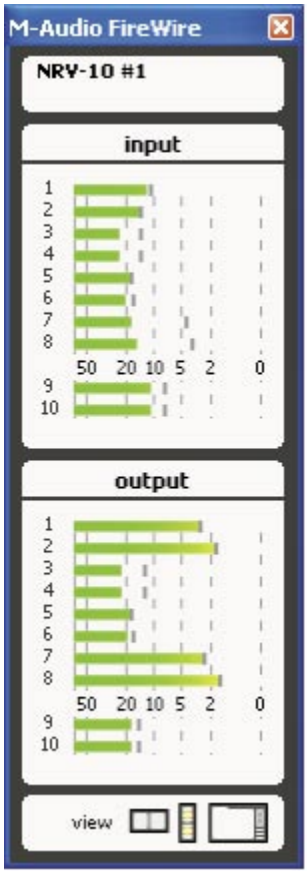
M-Audioの他のFireWireオーディオ・インターフェイスと同様に、NRV10のコントロールパネル・ソフトウエアの全てのページの右端には幾つかのアイコンが表示されており、表示方法を変更することができます。以下のコントロールは常に表示されています：

メーター・ビュー・オプション

メーター・ビューは、入出力VUメーターの縮小版です。メーター・ビュー・ウインドウは、画面上で常に一番手前に表示されるため、DAWを使用中にも録音の入力レベルをモニターすることができます。メーターは、以下の様に縦方向にも横方向にも表示することができます。



横向きメーター・ビュー



縦向きメーター・ビュー

設定のオプション

以下のボタンのグループでは、M-AudioのFireWireオーディオ・インターフェイスの設定を保存/ロードすることができます。

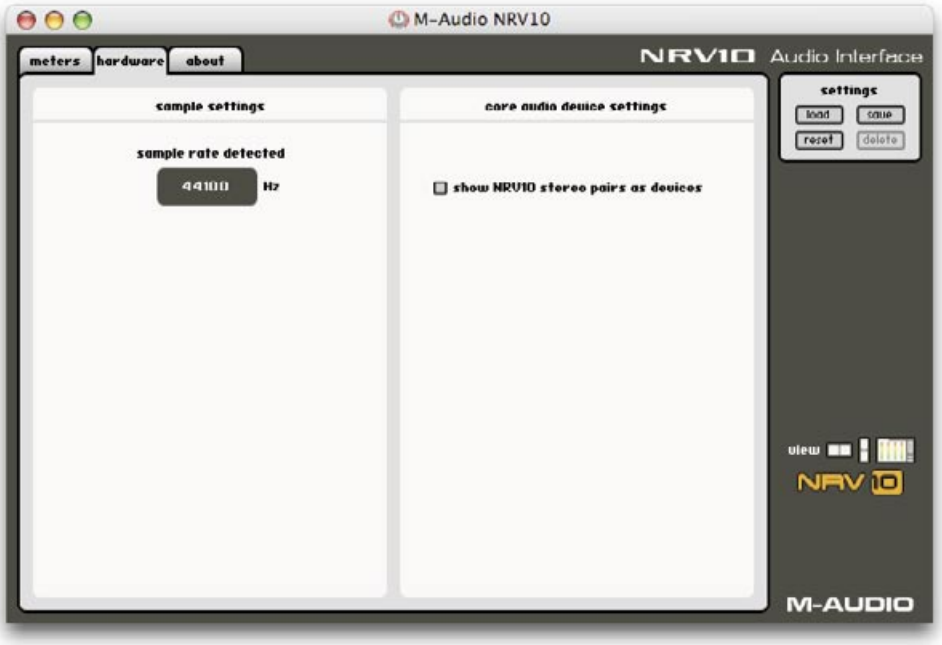
- **Load（ロード）** – 保存されている設定ファイルをロードします。
- **Save（保存）** – 現在の設定ファイルを保存します。
- **Reset（リセット）** – 現在の設定をデフォルトのパラメータに変更します。
- **Delete（削除）** – 保存されている設定ファイルを選択して削除します。

M-Audioロゴ – *コンピュータがインターネットに接続されている場合、M-Audioのロゴをクリックするとウエブ・ブラウザが起動しM-Audioのウエブサイトが表示されます。製品サポートやアップデート情報等にお役立て下さい。*

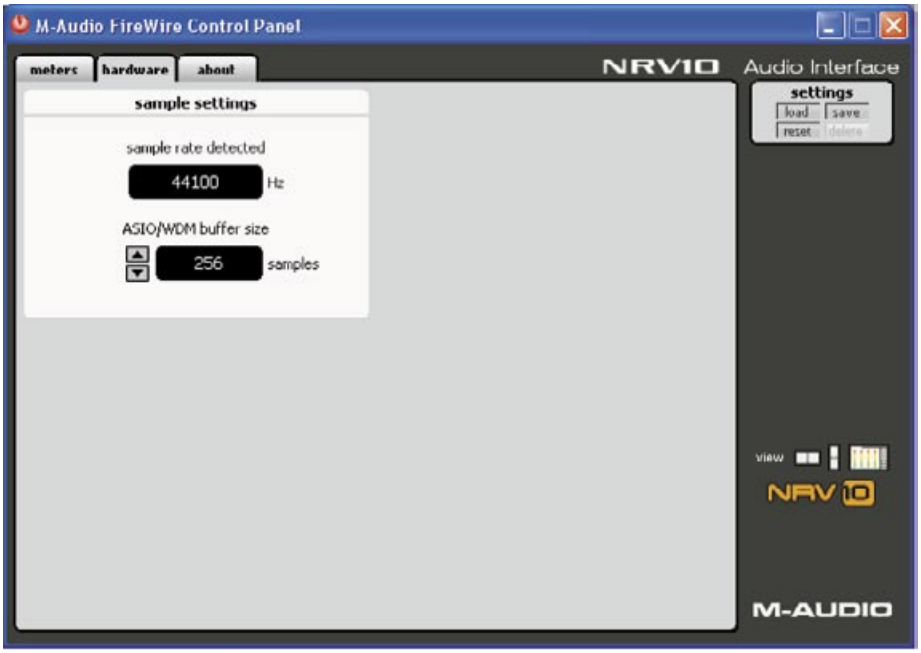
Meter（メーター）ページ

Meters（メーター）ページには、NRV10の入出力バスの簡単なVUメーターが表示されます。上部のメーターはNRV10のFireWire入力端子1～10を表示し、下部のメーターはNRV10のFireWire出力1～10が表示されます。

Hardware（ハードウエア）ページ



Hardware（ハードウエア）ページ - Mac OS X



Hardware（ハードウエア）ページ – Windows XP

Hardware（ハードウエア）ページでは、ハードウエアとドライバの様々な設定や情報にアクセスすることができます。

Sample Rate Detected – このフィールドでは、コンピュータやDAWにより提供される現在のサンプリングレート値を表示します。

ASIO/WDM Buffer Size（Windowsのみ） – このフィールドでは、使用するバッファ・サイズを選択することができます。バッファ・サイズを小さくするとレイテンシー（入力シグナルがDAWを通過し出力されるまでにかかる時間）が小さくなりますが、処理速度の遅いコンピュータでは適切に動作しない場合（オーディオに音飛びやクリック等のノイズが発生）があります。デフォルトのバッファ・サイズは、256です。この設定では、ほとんどの場合適切に動作しますが設定を少しずつ小さくして試して下さい。オーディオに音飛びやクリック等のノイズが発生する場合は、バッファ・サイズを大きくして試して下さい。

***注意**：Mac環境ではDAW側でバッファ・サイズを調整します。*

Core Audio Device Settings（Mac OS Xのみ） – NRV10は、Mac OS Xで一つのマルチチャンネル機器またはマルチ・ステレオ・ペア機器として認識させることができます。

「show NRV10 stereo pairs as devices」のボックスにチェックを入れるとNRV10をマルチ・ステレオ・ペア機器（1/2、3/4、5/6、7/8、9/10）としてDAWやOSで認識させることができます。このボックスからチェックを外すと、NRV10を一つのマルチチャンネル機器としてDAWやOSで認識させることができます。マルチ出力に対応していないDAWで使用する場合には、ボックスにチェックを入れることでNRV 10の1/2、3/4、5/6、7/8、9/10いずれかの出力を直接選ぶことができます。

About（アバウト）のページ

About（アバウト）ページでは、現在使用しているドライバ、コントロールパネル・ソフトウエア、ファームウエアのバージョン等が表示されます。

「updates」、「support」、「F.A.Q」等のボックスをクリックするとウエブブラウザが起動し（コンピュータがインターネットに接続されている場合）M-Audioのウエブサイト内の各ページが表示されます。

アナログ・ミキサーを使用する

9

NRV10は、高品位な音質を実現したアナログ・ミキサーと最新のFireWireオーディオ・インターフェイスを組み合わせ、簡単な操作性と素晴らしいサウンドのプロフェッショナルな録音/再生ソリューションを提供します。

プロジェクト・スタジオ・レコーディング

NRV10は、理想的なプロジェクト・スタジオ・インターフェイスでもあります。スタジオ・モニター（M-AudioのBX5a等）1セットをNRV10のコントロール・ルーム出力端子に接続すれば、コントロール・ルーム・レベル・フェーダ（31）で再生ボリュームをコントロールすることができ、メイン・ミックス・レベル・フェーダ（34）ではメイン・ミックス出力端子（36）へ送信されるレベルをコントロールすることができます。

DAWの個々のチャンネル出力全てを「M-Audio NRV10 9/10」に設定すると、出力シグナルを集束してNRV10のFW 9/10 to PhonesとFW 9/10 to Ctrl Roomバスへルーティングし、NRV10のミキサー入力チャンネルの全てを追加のレコーディングやオーバーダブの入力として使用できるようになります。Aux 1センドを使用して個々のチャンネルのモニター・ミックスレベルを設定してフォン・ソース・セレクタ（29）で「Monitor」を選択すれば、そのモニター・ミックスをフォン出力（16）へ送信することができます。Aux 1バスは、プリ・フェーダであるためコントロール・ルーム・ミックスをモニター・ミックスに影響を与えることなく変更することもその逆も可能です。

オーバーダブには、DAWから戻されたオーディオの最大8系統の独立トラックをNRV10のチャンネル1から8へ送信する選択肢もあります。これはNRV10のチャンネル・ソース・ボタン（6）で「FW」（下）の位置を選択してDAWのそれぞれのチャンネル出力に対応するNRVのチャンネル番号に設定することにより実行できます。NRVの統合したデジタル・エフェクト・プロセッサを使用してモニター・ミックスに少々リバーブを加えることもできます。ボーカルのレコーディングには、特に有効です。設定方法は、モニター・ミックスを上記の通り設定しますが、この場合DAWに録音するチャンネルは除きます。チャンネルのChannel Sourceスイッチ（6）を「Channel」（上）に設定します。Phone Source（フォン・ソース）セレクタ（29）を「Monitor」に設定し、「FW9/10 to Phones」コントロール（28）を中央の位置まで回します。ボーカルのチャンネルにあるAux 1のレベルをDAWから受信するトラックとうまくミックスするまで上げます。Aux 2のレベルを上げると選択したデジタル・エフェクトはヘッドフォン・ミックスに加えられ、その間ボーカルはドライ（エフェクトがかからない）な状態で録音されます。

ライブ・レコーディング

NRV10のアナログ・ミキサー部は、ミキシング・コンソールをこれまで使用したことがあればすぐに理解できライブやパフォーマンスをコンピュータで簡単に録音することができます。ライブやリハーサルの設定と同様に楽器とマイクロフォンを入力端子に接続しPAスピーカーを出力端子へ接続します。

Ch 1 – キックドラム・マイク

Ch 2 – スネアドラム・マイク

Ch 3 – ボーカル・マイク

Ch 4 – ギター・マイクまたはライン出力

Ch 5 – ベース（チャンネル5/6はモノラル）

Ch 7/8 – キーボード

コンプレッサ/リミターやその他のエフェクター機器も必要に応じてチャンネル・インサートに接続します。NRV10の内部デジタル・エフェクト・プロセッサは、入力ソース（ギターやボーカルのリバーブ等）のいずれにも使用することができます。

設定が終了すれば、NRV10のFireWireオーディオ・インターフェイスを使用してミキサーの出力をコンピュータへ直接録音することができます。NRV10は、10入出力の機器としてDAWアプリケーションで認識されます。オーディオ・ストリームの1から8はミキサー・チャンネルの1から8に対応し、オーディオ・ストリーム9と10はメイン・ミックスのシグナルを反映します。Pre-EQ/Post-EQボタン（26）を使用してオーディオ・ストリームがコンピュータへ送信されるのがEQセクションに送信される前（Pre-EQ）かEQセクションのすぐ後（Post-EQ）かを決定することができます。

上記の例では、DAWでチャンネル1から5を録音するよう設定するためチャンネル7と8は各トラックを個別に録音することができます。その後は、パフォーマンスを編集、調整を加えたりリミックスすることができます。（DAWが2トラックしか録音できない場合やステレオ録音をする場合等は、DAWでチャンネル9と10を録音するよう設定することができます）。

ライブ・パフォーマンス・ミキシング

DJまたはエレクトロニック・アーティストにとってNRV10は優れたライブ・パフォーマンス・ミキサーと言えます。例えば、Live、Reason等のソフトウエアを使用してコンピュータからの数チャンネルのオーディオをライブでアナログ・ミックスを作成することができます。またコンピュータのCPUにエフェクト・プラグインで大きく負担をかける代わりに、NRV10のチャンネルEQと最大2台の外部エフェクト・プロセッサをNRV10のAuxリターン（14）に接続することができます。

キュー・バスを使用する

DJミキサーと同様にNRV10のキュー・バスを使用してメイン・ミックスに加える前にトラックやサンプルをキュー・アップすることができます。Phoneソース・セレクタ（29）を「Cue」の位置に設定し、ミュート/キュー・ボタン（13）をキュー（下の位置）に設定すると、ヘッドフォンでどのチャンネルでも、またはどのチャンネルの組み合わせでもモニタリングすることができます。

FireWire接続を使用する

10

注意：*NRV10のFireWire端子は、ドライバのインストールが完了するまでコンピュータに接続しないで下さい。*

ドライバのインストールに関する情報は、NRV10に同梱されたクイックスタートガイドを参照して下さい

DAWでルーティング/モニタリングを操作する

NRV10は、FireWireを経由してコンピュータと10チャンネルのオーディオを送受信することができます。チャンネル1から8はミキサーの各入力チャンネルに対応し、チャンネル9と10はメイン・ミックスのバス・シグナルを送受信します。

DAWにトラックを送信する

NRV10のアナログ・ミキサーの設定にかかわらず、ミキサーからのオーディオ10チャンネルは常にFireWireバスで受信しDAWで直接録音することができます。ミキサー・チャンネルの1から8は、それぞれのFireWire出力へ送信されFireWireバス9と10はメイン・ミックス・シグナルを受信します。これらのシグナルは、チャンネル・ボリューム・フェーダーによる影響を受けず、一貫したレベルでクリーンな録音を行ないライブでミキシングすることができます。

Pre/Post-EQスイッチを使用する

Pre/Post-EQスイッチの位置は、チャンネル1から8のアナログ入力シグナルをDAWへ送信するのがチャンネルEQの前か後かを決定します。

Pre/Post-EQスイッチ（26）は、Pre-EQ（スイッチが上の状態）ではDAWに送信されるシグナルは入力ゲインの段階やインサート・ポイントを通過した後ですがEQに送信される前のシグナルです。

Pre/Post-EQスイッチ（26）はPost-EQ（スイッチが下の状態）で、DAWに送信されるシグナルは入力ゲインの段階やインサート・ポイントとEQを通過した後のシグナルです。

DAWに録音しながらオーディオをライブでモニタリングする

NRV10の柔軟な設計によりDAWで録音しながらオーディオをモニタリングする方法は数種類あります：

- DAWに送信される前の入力シグナルをローカルで部分的にモニタリングする。
- 個別のミキサーチャンネルで「Tape Return（テープリターン）」モニタリングする（DAWプロセシングの後）。
- 総合リターンチャンネルを「Tape Return（テープリターン）」モニタリングする（DAWプロセシングの後）。
- Auxセンド1（モノラル）を使用して独立したミックスをモニタリングする。

上記のモニタリングをそれぞれ解説します。

ローカル・モニタリング

DAWに送信される前の入力シグナルをローカルで部分的にモニタリングする

DAWにライブで録音する場合のモニタリング方法として使用します。

このモニタリング設定では、FireWireを経由してDAWへ送信される前の入力シグナルを聞くことができます。この設定は、レイテンシー（遅れ）が発生しないダイレクトな入力シグナルをモニタリングすることができるためライブの録音にも最適です。

- チャンネル・ソース・スイッチ（6）をCH（上の状態）に設定します。
- ミュート/キュー・スイッチ（13）を無効（上の状態）に設定します。
- フォン・ソース・スイッチ（29）をメイン・ミックスに設定します。
- DAWソフトウエア・モニタリングをオフに設定します。

注意：*この方法は、NRVをコンピュータで使用せずに操作する時にも使用できます。*

テープ・リターン・モニタリング ー 個別ミキサー・チャンネル

DAWからのリターン・シグナルをオリジナルのミキサー・チャンネルでモニタリング

エフェクト・プラグインがプロセスできる能力を利用して、DAWでミックスを作成しモニタリングする場合にこのモニタリング方法を使用します。

このモニタリング設定は、任意のアクティブFXプラグイン等を含むDAWへ送信され同じNRV10の入力チャンネルに戻った後の入力シグナルを聞くことができます（アナログ設定でテープリターンを聞くのと同じ状態です）。任意のエフェクト・プラグインを含むDAWのトラックをモニタリングする場合に有効なモニタリング方法です。

このモニタリング設定で発生するレイテンシーは録音/再生に設定したバッファ・サイズに依存します。最新のコンピュータであればバッファ・サイズを小さくても処理できほとんど気にならない程度の短いレイテンシーで作業することができます。

- チャンネル・ソース・スイッチ（6）をFW（下）に設定します。
- ミュート/キュー・スイッチ（13）を無効（上）に設定します。
- フォン・ソース・スイッチ（29）をMain Mix（メイン・ミックス）に設定します。
- Pre/Post-EQスイッチ（26）をPre-EQ（上）に設定します。
- DAWソフトウエア・モニタリングをオンにします。
- DAWチャンネル出力を同じチャンネル入力に設定します（例：入力3-4を出力3-4）。

注意：*このモニタリング方法を使用する場合、フィードバック・ループが発生しないよう注意して下さい。チャンネル・ソース・スイッチ（6）をFW（下）に設定したらPre/Post-EQスイッチ（26）をPost-EQ（下）に設定してはいけません。Post-EQに設定すると、Post-EQシグナルはDAWに送信され、同じシグナルがEQに送られる前にミキサーに戻りフィードバック・ループが生じます。これにより、聴覚ばかりかお使いの機器を損傷する恐れもあります。*

テープ・リターン・モニタリング ー 総合リターン・チャンネル

DAWからのリターン・シグナルがFW入力チャンネル9/10へ戻ってきた2トラック・ミックスとしてモニタリングする

NRV10のアナログ入力端子を1つ以上オーバーダブ用に使用しながらDAWからのミックスモニタリングする場合に有効なモニタリング方法です。

このモニタリング設定では、任意のFXプラグインを含むDAWに送信された後、NRV10の総合FW入力9/10に戻った入力シグナルを聞くことができます。FW 9/10からのオーディオは、ヘッドフォン出力（16）またはコントロール・ルーム出力（37）でモニタリングすることができ、リターン・レベルはFW9/10 to Phones（28）またはFW 9/10 to Control Room（27）のレベル・コントロールにより調節します。この方法は、FWチャンネル9/10を使用してステレオ・ミックスをDAWから戻すことができ、その間にNRV10の入力チャンネル1から8を使用して追加のトラックをモニタリング/録音できるため、オーバーダブ用のステレオ・ミックスの設定に有効です。

- チャンネル・ソース・スイッチ（6）をCH（上）に設定します。
- ミュート/キュー・スイッチ（13）を無効（上）に設定しチャンネルのオーディオ・入力をメイン・ミックス出力に送信します。このスイッチを有効（下）に設定するとメイン・ミックス出力に送信されるチャンネルのオーディオ入力がミュートされ、その代わりにキュー・バスに送信されます（シグナルはミュート/キュー・スイッチの設定にかかわらず依然としてDAWに送信されます）。
- フォン・ソース・スイッチ（29）をMain Mix（メイン・ミックス）に設定します。
- Pre/Post-EQスイッチ（26）をPre-EQに設定するとNRV10の入力シグナルはチャンネルEQに送られる前にDAWに送信されます。Post-EQに設定するとシグナルはEQを通過した後でDAWに送信されます。
- DAWソフトウエア・モニタリングをオンに設定します。
- DAWチャンネル出力をミックス出力（9と10）に設定します。

FW 9/10 to Phones（28）とFW 9/10 to Control Room（27）のレベル・ノブは、DAWから戻されるシグナルのレベルをコントロールします。

Auxセンド1（モノラル）を使用して独立ミックスをモニタリングする

個別のヘッドフォン・ミックスを作成する

メイン・ミックスに影響しない補助のミックスを作成する場合にこのモニタリング方法を使用します。

このモニタリング設定では、Main Mix（メイン・ミックス）またはControl Room（コントロール・ルーム）出力ミックスから完全に独立してミックスを作成しヘッドフォン出力に送信することができます。この個々のモニター・ミックスは、ボーカルやその他のオーバーダブを録音する場合に有効で個々のミックスをスタジオのミックスに影響することなく演奏者のヘッドフォンへ送信することができます。

チャンネル1から8のAux 1センド（8）を使用して独立ミックスを作成し、Aux 1リターン（23）を使用して全体のミックス・レベルをコントロールします。フォン・ソース・スイッチ（29）をMonitor（モニター）の位置に設定しておきます。

- チャンネルのアナログ入力をモニタリングする場合は、チャンネル・ソース・スイッチ（6）をCH（上）に設定します。DAWからのリターンをモニタリングする場合はFW（下）に設定します。
- ミュート/キュー・スイッチ（13）を無効（上）に設定するとチャンネルのオーディオ入力はメイン・ミックス出力に送信されます。このスイッチを有効（下）に設定するとメイン・ミックス出力へ送信されるチャンネルのオーディオ入力がミュートされ、その代わりにキュー・バスに送られます（ミュート/キュー・スイッチの設定にかかわりなくシグナルは依然としてDAWに送信されます）。

- フォン・ソース・スイッチ（29）をMonitor（モニター）に設定します。
- Pre/Post-EQスイッチ（26）をPre-EQに設定するとNRV10の入力シグナルはチャンネルEQに送られる前にDAWに送信されます。Post-EQに設定するとシグナルはEQを通過した後でDAWに送信されます。
- DAWからのトラックのリターンを聞く場合は、DAWソフトウエア・モニタリングをオンに設定します。オフに設定するとチャンネルの入力を聞くことができます。

重要：*このモニタリング方法を使用する場合、フィードバック・ループが発生しないよう注意して下さい。チャンネル・ソース・スイッチ（6）をFW（下）に設定したらPre/Post-EQスイッチ（26）をPost-EQ（下）に設定してはいけません。Post-EQに設定するとPost-EQシグナルはDAWに送信され、同じシグナルがEQに送られる前にミキサーに戻りフィードバック・ループが生じます。これにより聴覚ばかりかお使いの機器を損傷する恐れもあります。*

トラックをDAWからリターンする

録音が終了したらNRV10の1から8のうち任意の出力を選択しますが、これらのチャンネルはNRV10にルーティングされる各チャンネルに対する出力としてDAWに表示されます。ルーティング先の入力チャンネルのチャンネル・ソース・ボタン（6）をFW（下）に設定します。

デジタル・エフェクト・プロセッサ

11

NRV10 は、統合した16種類のデジタル・エフェクト・プロセッサを装備し各プリセット毎に16のバリエーションが用意されており合計で256種類のエフェクトが含まれています。Aux 2センド・コントロールを使用して入力シグナルをエフェクト・プロセッサへ送信します。

以下のプログラムが使用できます：

1. Short Room
2. Room
3. Small Hall
4. Large Hall
5. Short Plate
6. Vocal Plate
7. Cathedral
8. Gated Reverb
9. Mono Echo
10. Stereo Echo
11. Chorus Medium
12. Chorus Deep
13. Flange Medium
14. Echo + Vocal Plate
15. Chorus + Hall Reverb
16. Flange + Delay

技術仕様

12

デジタル・オーディオ・インターフェイス技術仕様	
マイク入力1-4（A/D、プリEQ、最小ゲイン）	
入力インピーダンス	4.5kΩ
最大入力レベル	+13 dBu ～ -43 dBu、バランス
チャンネル間のクロストーク	< -100 dB
SNR	-115 dB, A-weighted
ダイナミックレンジ	115 dB, A-weighted
歪み率	0.001% （-100 dB） @ +4 dBFS, 1 kHz
周波数特性	20 Hz ～ 60 kHz, +/- 0.1 dB @ 48 kHzサンプリングレート
可変ゲイン	56 dB
ライン入力1-8（A/D、プリEQ、最小ゲイン）	
入力インピーダンス	20kΩバランス
最大入力レベル	+20 dBuバランス= 0 dBFS
	+17.8 dBVアンバランス= 0 dBFS
チャンネル間のクロストーク	< -82 dB
SNR	-103 dB, A-weighted
ダイナミックレンジ	103 dB, A-weighted
歪み率	0.0025%（-92 dB）@ -1 dBFS, 1 kHz
周波数特性	20 Hz ～ 20 kHz, +/- 0.1 dB @ 48 kHzサンプリングレート
	20 Hz ～ 40 kHz, +/- 0.1 dB @ 96 kHzサンプリングレート
ミックス・ライン入力9-10（ライン入力からミックスA/D）	
最大入力レベル	+20 dBuバランス= 0 dBFS
チャンネル間のクロストーク	< -80 dB
SNR	-103 dB, A-weighted
ダイナミックレンジ	103 dB, A-weighted
歪み率	0.004% （-88 dB） @ -1 dBFS, 1 kHz
周波数特性	20 Hz ～ 20 kHz, +/- 0.2 dB @ 48 kHzサンプリングレート
	20 Hz ～ 40 kHz, +/- 0.4 dB @ 96 kHzサンプリングレート
チャンネルリターン1-8（D/A）	
最大出力レベル	0 dBFS = +20 dBuバランス
	0 dBFS = +11.8 dBVアンバランス
チャンネル間のクロストーク	< -85 dB
SNR	-105 dB, A-weighted
ダイナミックレンジ	105 dB, A-weighted
歪み率	<0.006% （-84 dB） @ -1 dBFS, 1 kHz
周波数特性	22 Hz ～ 22 kHz, +/- 0.2 dB @ 48 kHzサンプリングレート
	22 Hz ～ 40 kHz, +/- 0.3 dB @ 96 kHzサンプリングレート
ミックス・リターン9-10（D/A）	
最大出力レベル	0 dBFS = +20 dBuバランス
	0 dBFS = +11.8 dBVアンバランス
チャンネル間のクロストーク	< -85 dB
SNR	-105 dB, A-weighted
ダイナミックレンジ	105 dB, A-weighted
歪み率	<0.004% （-88 dB） @ -1 dBFS, 1 kHz
周波数特性	22 Hz ～ 22 kHz, +/- 0.2 dB @ 48 kHzサンプリングレート
	22 Hz ～ 40 kHz, +/- 0.5 dB @ 96 kHzサンプリングレート

アナログミキサー技術仕様	
マイク入力1-4（アナログ-インサート出力への入力）	
入力インピーダンス	4kΩ
最大入力レベル	+14 dBu ～ -44 dBuバランス
チャンネル間のクロストーク	< -100 dB
SNR	-115 dB, A-weighted
ダイナミックレンジ	115 dB, A-weighted
歪み率	<0.001% （-100 dB） @ +4 dBu, 1 kHz
周波数特性	20 Hz ～ 60 kHz, +/- 0.1 dB
可変ゲイン	58 dB
ライン入力（アナログ – インサート出力への入力）	
入力インピーダンス	20kΩバランス
最大入力レベル	+20 dBuバランス
	+17.8 dBVアンバランス
チャンネル間のクロストーク	< -80 dB
SNR	-115 dB, A-weighted
ダイナミックレンジ	115 dB, A-weighted
歪み率	<0.002% （-94 dB） @ +4 dBu, 1 kHz
周波数特性	20 Hz ～ 60 kHz, +/- 0.1 dB
ライン出力（アナログ）	
出力インピーダンス	360Ωバランス
最大出力レベル	+20 dBuバランス
	+17.8 dBVアンバランス
周波数特性	20 Hz ～ 60 kHz, +/- 0.1 dB
ヘッドフォン出力（アナログ）	
最大出力	+7.2 dBu （5 Vpp） at THD < 0.01% into 32Ω
インピーダンス	37Ω
許容範囲	24～600Ω
クロストーク	< -80 dB
インサート（アナログ）	
出力インピーダンス	180Ωアンバランス
入力インピーダンス	10kΩアンバランス
最大センド/リターン・レベル	+12 dBVアンバランス
Auxセンド（アナログ）	
出力インピーダンス	150Ω
公称センドレベル	+12 dBVアンバランス
Auxリターン（アナログ）	
入力インピーダンス	20kΩバランス
最大レベル	+20 dBuバランス
	+17.8 dBVアンバランス

製品保証

13

保証規定

エムオーディオでは安全上のご注意に基づいて適切に使用されている場合に限り、本製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間となり修理は無償で行います。しかしながら、不適切な使用方法による破損の場合、ご購入者が所有していない場合、エムオーディオでのユーザー登録がお済みでない場合などは保証の対象となりません。但し、電源アダプタやケーブルなどの付属品は、適切な使用の結果不具合が生じた場合でも保証対象には含まれません（初期不良の場合は除く）。お使いの製品に対応する保証規定はwww.m-audio.jp/warrantyでご覧下さい。

エムオーディオへ製品を送付する場合には、事前にエムオーディオのRA（Return Authorization）番号を取得する必要があります。製品のRA番号を取得するには、エムオーディオへご連絡頂ければ、エムオーディオのカスタマーサービスが症状などをお伺いしエムオーディオへ製品の送付が必要と判断した場合にRA番号を発行させて頂きます。製品のRA番号を取得後、具体的な症状や送付理由を書面に記述し、製品を保護する安全な梱包を施した上、外装パッケージにRA番号を明記しM-Audioまで送付下さい。製品の修理には発送時の送料、返却時の送料と発生し得る手数料はご購入者の負担となります（初期不良の場合は除く）。

ユーザー登録

エムオーディオへお問い合わせ頂く場合には、エムオーディオでのユーザー登録を完了しなければ製品保証や技術的なサポートを受けることができません。ユーザー登録を行うには、次の2つの方法があります。環境に合わせた方法でユーザー登録を行って下さい。1.）コンピュータで（一般的なWebブラウザ）エムオーディオWebサイトへアクセスできる方：エムオーディオ オンラインユーザー登録ページhttp：//web.m-audio.jp/register/にて、必要事項を入力して送信して下さい。2.）携帯電話でエムオーディオWebサイトへアクセスできる方：エムオーディオ　モバイルサイトのオンラインユーザー登録ページhttp：//web.m-audio.jp/mobile/にて、必要事項を入力して送信して下さい。（注意：ユーザー登録完了のご案内は行っておりませんのでご了承下さい。）

M-AUDIO NRV10
Tested to comply with FCC standards
FOR HOME OR STUDIO USE

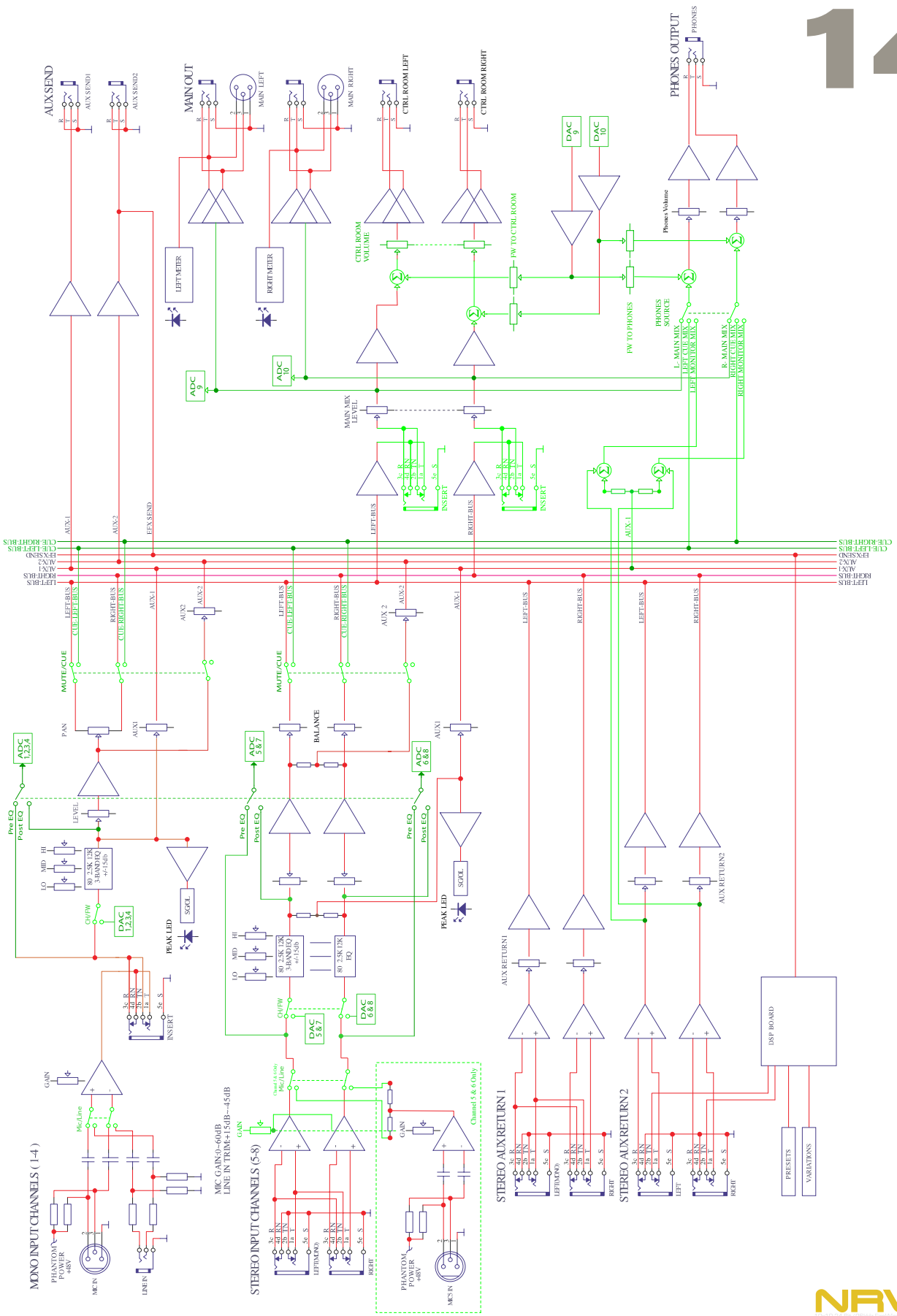
N382

© 2006 Avid Technology, Inc. 無断複写、転載を禁じます。製品の特徴、仕様、システム環境条件、在庫状況は予告無く変更になる場合があります。AvidとM-AudioとNRV10はAvid Technology, Incの商標または登録商標です。ここに記載されているその他全ての商標または登録商標はそれぞれの所有者に属します。

警告**：本製品には鉛を含む化学物質が含まれます。癌や出生異常、その他生殖への危害の原因となる物質として米国カリフォルニア州で知られています。**ご使用の後には手を洗って下さい。

付録 ー ブロック・ダイアグラム

14



お問い合わせ先

15

M-Audio USA
5795 Martin Rd., Irwindale, CA 91706

Technical Support	
web:	www.m-audio.com/tech
tel (pro products):	(626) 633-9055
tel (consumer products):	(626) 633-9066
fax (shipping):	(626) 633-9032
Sales	
e-mail:	sales@m-audio.com
tel:	1-866-657-6434
fax:	(626) 633-9070
Web	www.m-audio.com

M-Audio U.K.
Floor 6, Gresham House, 53 Clarenden Road,Watford
WD17 1LA, United Kingdom

Technical Support	
e-mail:	support@maudio.co.uk
tel:(Mac support):	+44 (0)1765 650072
tel: (PC support):	+44 (0)1309 671301
Sales	
tel:	+44 (0)1923 204010
fax:	+44 (0)1923 204039
Web	www.maudio.co.uk

M-Audio France
Floor 6, Gresham House, 53 Clarenden Road,Watford
WD17 1LA, United Kingdom

Renseignements Commerciaux	
tel :	0 810 001 105
e-mail :	info@m-audio.fr
Assistance Technique	
PC :	0 820 000 731
MAC :	0 820 391 191
Assistance Technique	
e-mail :	support@m-audio.fr mac@m-audio.fr
fax :	+33 (0)1 72 72 90 52
Site Web	www.m-audio.fr

M-Audio Germany
Kuhallmand 34, D-74613 Ohringen, Germany

Technical Support	
e-mail:	support@m-audio.de
tel	+49 (0)7941 - 9870030
fax:	+49 (0)7941 98 70070
Sales	
e-mail:	info@m-audio.de
tel:	+49 (0)7941 98 7000
fax:	+49 (0)7941 98 70070
Web	www.m-audio.de

M-Audio Canada
1400 St-Jean Baptiste Ave. #150, Quebec City,
Quebec G2E 5B7, Canada

Technical Support	
e-mail:	techcanada@m-audio.com
phone:	(418) 872-0444
fax:	(418) 872-0034
Sales	
e-mail:	infocanada@m-audio.com
phone:	(866) 872-0444
fax:	(418) 872-0034
Web:	www.m-audio.ca

M-Audio Japan
アビッドテクノロジー株式会社 | エムオーディオ事業部：〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内 2-18-10
Avid Technology K.K. : 2-18-10 Marunouchi, Naka-Ku, Nagoya, Japan 460-0002

カスタマーサポート（Technical Support）	
e-mail :	win-support@m-audio.jp
e-mail (Macintosh 環境専用):	mac-support@m-audio.jp
tel :	052-218-0859（10:00~12:00/13:00~17:00）
セールスに関するお問い合わせ（Sales）	
e-mail:	info@m-audio.jp
tel:	052-218-3375
fax:	052-218-0875
Web:	www.m-audio.jp